

## はじめに

地域がん登録全国協議会の第9回総会・研究会を、平成12年9月14日に横浜市において開催いたし、前日の地域がん登録実務者研修会・自由集会と併せて、多数の参加者を得て無事終了することができました。また、その記録集として、この「JACRモノグラフ第6号」を発刊する運びとなりました。この場をお借りして、ご講演・ご報告いただいた方々、会員諸兄弟ならびに関係各位に厚くお礼を申し上げます。

本会では、「生活環境モニタリングとしての地域がん登録の役割」を主題として開催いたしました。この主題を取り上げました理由として2つの要因がありました。一つは、国民の間で「近年の科学技術の発展による生活環境の激変によってもたらされた大気汚染、水質汚染、放射線被曝、ダイオキシン、電磁場などによる健康影響の可能性」に関心が注がれるようになってきたこと、第二に、地域がん登録を実施する側として「登録された資料や解析結果が、国民にどのように役立つのか」を明確に示す必要があったこと、の二つであります。勿論、地域がん登録の最大の使命は「正確ながん罹患数や罹患率を計測すること」に在ることは論を待ちませんが、その重要性の割には関心が薄く、国が行っている人口動態の死亡統計と同じように簡単に集計可能な数値とみなされているようで、行政や国民に訴えるインパクトが低いようなのです。この点は、これまでの「がん疫学研究」のほとんどが死亡をエンドポイントとして解析を行ってきたことに原因の1つがあるのかも知れません。しかし、今回の総会・研究会では罹患データの意義には触れず、国民の関心に添った「地域がん登録の有用性」を示すことに主眼を置きました。

特別講演では、世界で唯一の被爆国であるということと、わが国で最も「地域がん登録の有用性」が示されていることから、広島・長崎における「原爆被爆者と地域がん登録」についてのご講演を長崎大学の学長である池田高良先生にお願いいたしました。また、近年問題となっています生活環境の変化による健康障害については、シンポジウム形式で農薬・水質汚染、電磁場、放射線、大気汚染、廃棄物処理・ダイオキシンについて、地域がん登録がいかなる役割を担うことができるのかをご報告いただきました。

今回の主題とは別に、教育講演として近年増加が著しい「前立腺がん」についての日米比較を臨床病理学的視点から報告していただき、各登録室からはそれぞれの活動をポスター形式で10題ほど発表していただきました。

以上が準備段階で用意していた内容でしたが、中途、どうしてもご報告願わねばならない事情が生じたため、急遽、特別報告を設けました。内容は、個人情報保護に関することであります。直接的には、電算処理が普及したため、個人情報の保護が緊急の課題となり、個人情報保護に関する立法化が画策されることになったためです。基本案ですと、個人情報の収集は個人のICが必要で、開示請求に応じなければならないというものでした。この基本案が法制化されると、地域がん登録事業や疫学研究はほとんど不可能となるため、この状況を逸早く察して世界中の状況を調査された瀬上清貴先生（千葉県健康福祉部）に、現状の問題と今後の対応についてご教示していただきました。

総会の前日に行われた実務者研修会を含めると、大変過密なスケジュールで内容も多岐に涉った総会・研究会でしたが、このモノグラフが地域がん登録の更なる理解に役立ち、今後の実りある地域がん登録の活動に少しでも役立てば幸いです。

（岡本直幸）